



＜世界母乳育児週間 世界母乳の日＞ 2025年8月30日(土)、31日(日) 東京都・一橋講堂

「第33回母乳育児シンポジウム」

赤ちゃんの力・お母さんの力を引きだす母乳育児—今の時代に—

主催：一般社団法人日本母乳の会

後援：UNICEF 東京事務所 こども家庭庁 日本産科婦人科学会 日本小児科学会 日本小児科医会
日本新生児成育医学会 日本周産期・新生児医学会 日本助産師会 日本看護協会 東京都医師会
東京産婦人科医会 東京小児科医会 東京都看護協会 東京都助産師会 東京都 (申請中)

実行委員長 永山 善久(小) 長岡療育園・日本母乳の会代表理事
副実行委員長 秋葉 和敬(産) 秋葉産婦人科

今年も「世界母乳の日」、「世界母乳育児週間」の8月に、日本母乳の会主催の母乳育児シンポジウムを開催します。今回のシンポジウムのメインテーマは「赤ちゃんの力・お母さんの力を引きだす母乳育児—今の時代に—」です。世界母乳の日が制定された33年前、日本の母乳率は30%台に低迷していました。それが第一次「健やか親子21」のまとめの時期に行われた2015年の乳幼児栄養調査では、国全体の生後1か月の母乳率は51.3%と過半数を超えました。それは母乳育児を大事に母子にかかわったすべての人の努力の結晶であり、大変うれしい出来事でした。しかし、若い人たちの意識の変化、急激な出生率の低下に加え、2020年の新型コロナウイルスのパンデミックが決定的な要因になって、母乳育児率は急激に低下しました。2024年に公表された令和5年(2023年)の乳幼児身体発育調査では1か月の母乳率は34.5%まで低下していました。最近の状況は、母親の意識の変化、医療スタッフの意識の変化、医療環境の変化、社会の変化などが益々母乳育児を難しくしていると考えられます。しかし、母乳育児に内在する(母子関係や社会への)重要性はどんな時でも変わらないはずで

そこで今回のシンポジウムではメインテーマのもと、今の時代に母乳育児を進めるための3つのシンポジウムを企画しました。また、実行委員会では2つのアンケート調査を実施しました。全国の分娩施設における母乳育児支援の実態についてと、関東地域の自治体における母子支援の施策についてです。これらのデータを加えながらシンポジウムで皆さんと一緒に、明日からでも実践できる母乳育児支援について考えたいと思っています。

特別講演は、東京農工大学の永岡謙太郎先生から「母乳が整える子の腸内細菌叢—脳腸相関との関係—」についてお話していただきます。1億年を超える哺乳類の進化の歴史を母乳育児は支えてきました。その重要性をマウスモデルの基礎的研究を通して解説していただけるものと期待されます。

今年の夏も酷暑が予想されますが、8月の暑い東京で、母乳育児支援について皆様と熱い討議をしたいと考えています。ぜひ、多くの皆さまの現地参加をお願い申し上げます。

日本専門医機構：小児科領域講習小児科専門医1単位、産婦人科領域講習産婦人科専門医1単位、

日本産科婦人科学会5点。日本産婦人科医会研修参加証(シール)申請中。

日本助産評価機構のアドバンス助産師更新「選択研修」、日本助産師会産後ケア実務助産師研修に該当

「第33回母乳育児シンポジウム」プログラム(案) 変更となることもあります

スケジュール

8月30日(土) 9:45-17:50		8月31日(日)9:15-16:00	
9:45~10:10	開会にあたって	9:15~10:30	一般演題
10:10~10:25	日本の「BFH」年間データ報告	10:30~12:10	シンポジウム2 時代とともに 母乳育児
10:25~12:00	ワークショップ : NICUの母乳育児を考える		基調: 母乳育児を取り巻く社会の変化
	1)BFNICU 認定の意義		1)混合病棟における課題と対応
	2)BFNICU 認定への取り組みと課題		2)混合病棟で母乳育児支援に携わる助産師の意識調査
	3)母乳栄養を支えるためのNICUの取組		3)母親の変化・混合栄養希望の母にどう支援するか
4)周産期センターにおけるファミリーセンターケア	4)精神的リスクをかかえた母親への母乳育児支援		
11:50~13:00	昼食	12:10~13:10	昼食
13:00~14:00	一般演題	13:10~13:25	報告:自治体の母乳育児支援への取り組みの現状調査
14:00~15:00	特別講演 : 母乳が整える子の腸内細菌叢	13:25~14:05	基調講演 : 赤ちゃんはどう見えているの。赤ちゃん目線
15:00~15:15	休憩	14:05~16:00	シンポジウム3 赤ちゃん目線の産後ケア
15:15~17:25	シンポジウム1 できることから始めよう 10カ条	16:00~16:10	1)クリニックにおける産後ケアの取り組み
	基調:母乳育児成功のための10カ条とは		2)病院での訪問型産後ケアの取り組みと課題
	1)全国分娩施設アンケートから		3)コロナ禍を経て病院での産後ケアの取り組み
	2)母子同室の課題・特に日齢0の同室		4)開業助産所での産後ケア(宿泊も含む)の取り組み
	3)母子同室・頻回授乳の実践と課題		5)行政が取り組む産後ケアの支援と課題
	4)帝王切開分娩後のSTS(早期母子接触)	閉会挨拶	
	5)高年齢出産の母親への母乳育児支援	第34回実行委員会挨拶	
17:25~17:55	ポスターセッション		
18:15~20:00	懇親会 (中会議室)		

メインテーマ

赤ちゃんの力・お母さんの力を引き出す母乳育児—今の時代に—

8月30日(土)

総合司会: 重松 環奈(助) 日本赤十字社医療センター

新名 美佳(助) 昭和医科大学江東豊洲病院

9:45~10:10 開会にあたって

開会 挨拶: 第33回母乳育児シンポジウム実行委員長 代表理事 永山 善久

挨拶: 東京都(依頼中)

メッセージ: ユニセフ東京事務所所長 (依頼中)

こども家庭庁母子保健課課長(依頼中)

ベビーフレンドリー母乳育児支援施設認定発表

10:10~10:25

日本における「赤ちゃんにやさしい病院・BFH」年間データ発表

高寺 明弘(小) 加古川中央市民病院 日本母乳の会データ管理委員会

10:25~12:00

ワークショップ:「NICUにおける母乳育児を考える」

司会: 畠山 知子(助) ヘルランド看護助産大学校

加藤 文典(小) 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター

- 1) BFNICU 認定の意義 國安 ゆかり(助) 国立病院機構岡山医療センター
- 2) BFNICU 認定への取り組みと課題 古田 晃子(看) 岐阜県総合医療センター
- 3) 母乳栄養を支えるための当院 NICU の取り組み
村瀬 正彦(小) 昭和医科大学横浜市北部病院こどもセンター
- 4) 総合周産期センターにおけるファミリーセンター ド ケアと母乳育児支援の取り組み
樋口 昌子(助) 東京都立墨東病院

<12:00~13:00 昼食>

12:00~14:00 乳頭ケア実践研修(別途申込者のみ) 別室にて

ファシリテーター

有道 順子(助) サン・クリニック 佐藤 文彦(産) 横山病院 他

13:00~14:00 一般演題

14:00~15:00 特別講演

「母乳が整える子の腸内細菌叢—脳腸相関との関係—」

講師: 永岡 謙太郎 東京農工大学大学院農学研究院動物生命科学部門

司会: 永山 善久(小) 長岡療育園

<15:00~15:15 休憩>

15:15~17:20 シンポジウム 1

「できることから始めよう 10カ条 —どんな時でも母乳育児ができるように—」

司会: 大谷ゆかり(助) 京都府立舞鶴こども療育センター

松下 悠紀(小) 国立病院機構九州医療センター

- 基調: 母乳育児成功のための 10カ条とは 大谷ゆかり(助) 京都府立舞鶴こども療育センター
- 1) 全国分娩施設アンケートから 岩田 みさ子(産) 東京都立大塚病院
 - 2) 母子同室の課題、特に日齢0の同室 吉田 美寿々(小) 大阪母子医療センター
 - 3) 母子同室・頻回授乳の実践と課題 豊増 理伽(助) 東京都立大塚病院
 - 4) 帝王切開分娩後の STS(早期母子接触)導入への道 白石 淳(小) 国立循環器病研究センター
 - 5) 高年齢出産の母親への母乳育児支援 田中 律子(助) 日本赤十字社医療センター

17:25~17:50 ポスターセッション

18:15~ 懇親会(中会議室)

8月31日(日)

総合司会：岡田 典子(助) 秋葉産婦人科
岡田真衣子(小) 東京都立大塚病院

9：15～10：30 一般演題

10：30～12：10 シンポジウム2

「時代とともに 母乳育児—変えてはいけないもの・変わっていくもの」

司会：森沢 猛(小) 加古川中央市民病院
馬目 裕子(助) 日本赤十字社医療センター

基調：母乳育児を取り巻く社会の変化 森沢 猛(小) 加古川中央市民病院

- 1) 混合病棟における課題と対応 木下 かすみ(助) 国立病院機構神戸医療センター
- 2) 混合病棟において母乳育児支援に携わる助産師の意識調査
堀 美智子(助) 山形県立中央病院
- 3) 母親の変化・混合栄養希望の母にどう支援するか 秋葉 和敬(産) 秋葉産婦人科
- 4) 精神的リスクをかかえた母親への母乳育児支援

横山 美奈子(産) 国立病院機構弘前総合医療センター

<12：10～13：10 昼食・休憩>

13：10～13：25

報告：自治体(関東)の母乳育児支援への取り組みの現状調査 中山 香映(助) 昭和医科大学

13：25～14：05

基調講演「赤ちゃんはどう見えているの。赤ちゃん目線になってみよう」

講師：笠松 堅實(産) 笠松産婦人科・小児科

司会：黒川 賀重(産) 黒川産婦人科医院

14：05～16：00 シンポジウム3

「赤ちゃん目線の産後ケア」

司会：黒川 賀重 黒川産婦人科医院

- 1) クリニックにおける産後ケアの取り組み 月岡 ひろみ(助) あわの産婦人科医院
- 2) 病院での訪問型産後ケアの取り組みと課題 遠藤 奈央美(助) ベルランド総合病院
- 3) コロナ禍を経て病院での産後ケアの取り組みを始めて 津田 真弥子(助) 大阪市立十三市民病院
- 4) 開業助産所での産後ケア(宿泊も含む)の取り組み 草野 祐香利(助) こみゅーん助産院
- 5) 行政が取り組む産後ケアの支援と課題

木村ひとみ(保) 東京都豊島区健康推進課母子継続支援グループ

16：00

閉会の挨拶 第33回母乳育児シンポジウム副実行委員長 秋葉 和敬(産)

第34回母乳育児実行委員会 大阪開催

16：10 閉会